



ITU-R RAG 第25回会合結果概要

—WRC決議908及びITU-R 4カ年業務計画を中心に—

総務省 総合通信基盤局 電波部 電波政策課 国際周波数政策室

あみの
網野
なおこ
尚子



1. はじめに

無線通信アドバイザーグループ (RAG: Radiocommunication Advisory Group) は、ITU条約第11A条に規定された会合であり、世界無線通信会議 (WRC) の準備や無線通信総会 (RA)、ITU-R研究委員会 (Study Group: SG) に関する計画、運営、財政事項等について検討し、その結果を無線通信局長に提示することを任務としている。

RAG会合は通常年1回開催されており、今会合は、2018年3月26日～29日の4日間の日程でITU本部 (スイス・ジュネーブ) において開催された。RAG会合は昨今3日間の日程が通常であるが、今会合では、ITU戦略計画 (Strategic Plan) 及びITU-R業務計画 (Operational Plan) の議論を行うため、4日間での開催となった。

出席者は、32か国の主管庁、民間企業、ITU事務局から約85名である。

本RAG会合では、2018年理事会関連事項、WRC-15決議の実施、RA-19及びWRC-19の準備状況、SG活動、ITU戦略計画及びITU-R業務計画、BR情報システム、セクター間調整、メンバーアウトリーチが議題項目として審議が行われたが、本稿では、日本が支援している「衛星網ファイリングの電子申請プロジェクト (WRC-15決議908の実施)」及びITU-R 4カ年業務計画を中心に報告する。

2. 衛星網ファイリングの電子申請プロジェクト (WRC-15 決議908の実施)

WRC-15決議908は、各国主管庁が行う衛星網のファイリング申請・公表等を電子的に行うシステムをITUが導入することを目的とした決議である。

昨今、衛星の新規参入の増加により、衛星調整に係る作業量が増加しているところであり、本決議を実施することにより、郵送、FAXあるいはメールでやりとりしていた業務を、ウェブシステム上で行うことができるようになれば、主管庁及びITU無線通信部門 (BR) の作業負担を大幅に減らすことが期待できる。

総務省は本決議の実施のためのBRにおける開発を支援するため、昨年5月にITUに対して拠出金の供与を行って、

同プロジェクトの進捗に貢献しているところである。

現時点までのところ、BRにより、衛星網ファイリングのためのオンライン申請システムが開発され、同システムの外部テストが実施されたところである。

BRからは、今後のスケジュールは以下が予定されていることを含め進捗状況について報告があった。

- ・2018年6月中頃まで：同システムの外部テストの結果を踏まえた改良
- ・2018年7月末まで：同システムを任意で使用可能 (主管庁はFAXやメールの添付ファイルによる提出も可能)
- ・2018年8月以降：同システムの使用の義務化

日本からは寄書を提出し、外部テストに全ての主管庁が参加することが望ましいこと、BRはエンジニアの増員や設備の増強をすべきであることを主張した。

同プロジェクトによりBRによって開発されるシステムが、主管庁及びBRの作業効率化を促進し、新たに参入する事業者にとっても容易に使用できるようユーザーフレンドリーなものとなり、確実性と安全性を確保できるものとなるように、今後も引き続き進捗を確認しつつ、積極的に貢献してまいりたい。

3. ITU戦略計画案 (2020–2023年) 及び ITU-R 4カ年業務計画案 (2019–2022年)

3.1 ITU戦略計画案 (2020–2023年)

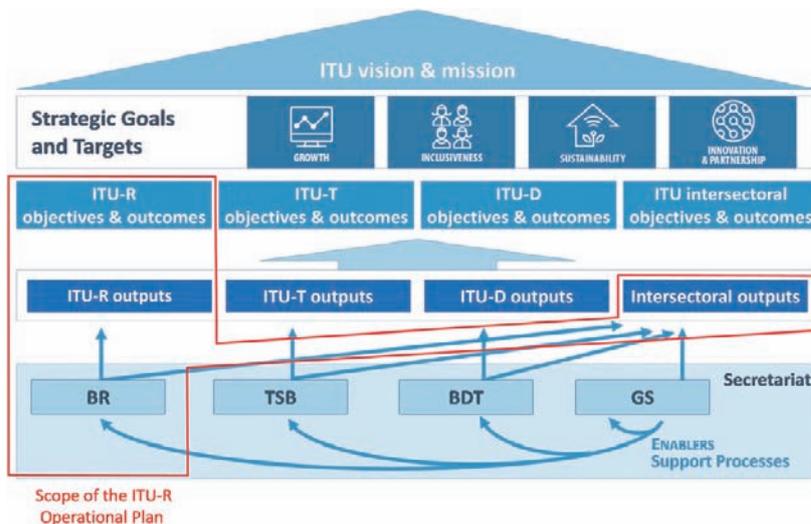
現行のITU戦略計画は、2014年の全権委員会議 (PP) 決議71として承認された2016～2019年の戦略計画であるが、次期戦略計画 (2020～2023年) については、2018年秋に開催されるPP-18での承認に向けて検討が行われているところである。

同戦略計画案は、本RAG会合後に開催される理事会 (2018年4月に開催済) において審議される前に、無線通信部門の観点からの意見をRAGからBR局長に助言することが求められており、本RAG会合でその審議が行われた。

同戦略計画には、戦略ゴール、ターゲット、各セクターの目的、アウトカム、アウトプット等が記載されており、戦略計画のフレームワークは図1のとおりである。



■ 図1. 戦略計画のフレームワーク (CA/239 Summary of conclusions of the twenty-fifth Radiocommunication Advisory Group meetingより転記)



■ 図2. ITU-R業務計画とITU戦略フレームワーク (CA/239 Summary of conclusions of the twenty-fifth Radiocommunication Advisory Group meetingより転記)

現戦略計画から次期戦略計画への主な変更点としては以下が挙げられる。

- ・戦略ゴールは、4つ (1成長、2包括性、3持続性、4イノベーション及びパートナーシップ) であったが、イノベーションとパートナーシップを分離し5つとした。
- ・ITUの共通理念・原則として重視すべき「バリュー」のコンセプトを8つから5つに整理統合した。
- ・「WSISアクションライン及びSDGsとのリンク」を記載する章を追加した。
- ・各セクター共通の目的として、セクター間及び事務総局との調整の強化を追加した。
- ・ITU-Rセクターの目的、アウトカムについては、軽微な文言修正を加えた。

本RAG会合では、ITU-Rの目的、アウトカム部分の文言について、他セクターとの並びの観点等からの修正意見があり、それらを含めた上で、BR局長から理事会のワーキンググループに修正意見が提出されることとなった。

3.2 ITU-Rの4か年業務計画案 (2019–2022年)

ITU-Rの4か年業務計画は、上記のITU戦略計画に基づいて毎年作成され、RAGで検討したのち、理事会で検討・承認されることとなっている。本RAG会合では2019年～2022年におけるITU-R 4か年業務計画の審議が実施された。同業務計画は以下の構成となっており、同業務計画とITU戦略フレームワークとの関係は図2のとおりである。

- ・ITU-Rの状況と主な優先事項
 - ・WRC-15における決定事項の実施
 - ・RRBによる手続き規則の採択
 - ・ソフトウェアツールの開発及びITUメンバーへの提供
 - ・ITU-R Study GroupにおけるRA-19及びWRC-19の準備
 - ・電波有効利用のための勧告・レポート・ハンドブックの作成 (特に5Gに関するもの)
 - ・世界及び地域の無線セミナー、会合、ワークショップ等のイベントによる、情報の普及及び共有情報の普及及び共有
- ・ITU-Rの結果の枠組み
- ・リスク分析
- ・ITU-Rの目的、アウトカム、アウトプット
- ・業務計画の実施

本RAG会合では、ITU-Rのアウトカム指標が一つ追加され、それに伴いアウトカム指標が追加される等の修正が行われたのち承認され、理事会に送付されることとなった。

4. 次回のRAG会合

次回RAG (第26回) 会合は、2019年4月15日から17日の3日間で開催予定である。今回は、WRC-19及びRA-19の直近の会合となるため、それらに関連した提案及び審議が実施されることが想定される。WRC-19対応の観点からも、次回RAG会合について、より動向に注意して対応してまいりたい。